

縄文時代の「落とし穴」の話

落とし穴は、主にシカやイノシシなどを獲るためにつくられ、東日本を中心に発見されています。獲物の行動に合わせ、台地の上や斜面などにしかけられていました。

千葉県では、成田空港近隣の遺跡群をはじめ、主に県北部の遺跡で発見されていますが、規則的に配列された例は少ないようです。これには、「けもの道」などにしかける「わな罠」が中心に行われていたためではないか、という説もあります。

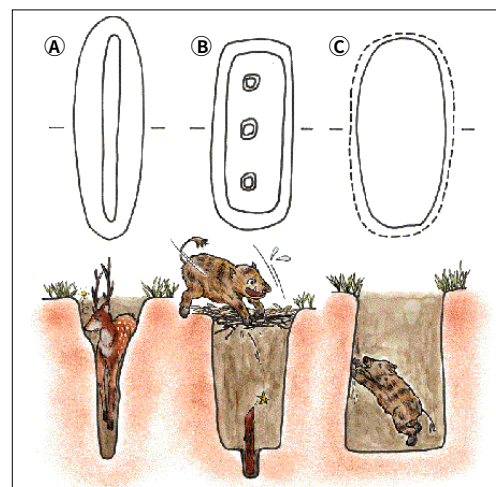
ところで、この落とし穴、発掘作業を行う補助員さんにとっても、なかなかテゴワイ存在なのです。底に近づくにつれて

身動きはできなくなるわ、服は土まみれになるわ、夏はサウナ状態になるわで、大変だからです。

補助員さんの話によると、「下から空を見上げると、獲物の気持ちがよく分かる！」そうです。



「センセエ！まだ掘るんですかあ〜・・・」



＊考古学用語では、一般的に「陥穴」を用いています。
＊落とし穴の平面形は、「楕円形」「長楕円形・細い溝形」「長方形」などがあります。深さは、約0.5mから3mまで様々です。
＊穴の底に尖った杭を埋め込み、獲物に傷を負わせたり、身動きができなくする「逆茂木」式の落とし穴もありました（イラストB）。
＊北海道や東北地方では、規則的に配列された例が多く、「追い込み罠」が盛んだったようです。イラスト／石井歌織

縄文レポートコーナー

●母校の下に遺跡があった！

千葉県立木更津高等学校の生徒と教職員が、学校の敷地にある四房遺跡の発掘調査を7月19日に見学しました。



弥生時代のムラ跡や中世の溝跡を見学した参加者は、当センター職員の説明を受け、ごく身近な所にある郷土の歴史を学習していました。

●親子で“夏休み発掘体験ツアー”



当センターが調査中の君津市鹿島台遺跡において、JH日本道路公団東京建設局主催の発掘体験ツアーが、8月22日・24日に行われ、都内から約80名の参加がありました。

当日、アクアラインを大型バスで渡って参加した小・中学生は、竪穴住居を体験発掘し、夏休み最後のよい思い出作りができたようです。

お知らせコーナー

●地中からのメッセージ

ー第3回最新出土考古資料巡回展ー 開催中！

千葉県文化財法人連絡協議会ほか主催の巡回展は、今年で3回目を迎え、県立総南博物館を皮切りに県内の県立博物館を巡回しています。主な展示物は、今春、新聞紙上ににぎわせた君津市三直貝塚をはじめ、県内各地の最新の出土資料です。

最後の展示会場は県立中央博物館で、三直貝塚を中心とした講演会と調査担当者による調査発表も予定していますので、是非ご来場下さい。

展示期間：平成12年12月16日（土）～

平成13年1月14日（日）（入館料無料）

＊毎週月曜日と年末年始は休館です。

講演会及び発表日時と会場：平成12年12月23日（土）

午後1：30～3：30／県立中央博物館講堂

◇発表演題：「君津市三直貝塚の調査」

◇講師：当センター職員 吉野健一

◇時間：午後1：35～2：00

◆講演演題：「縄文の大土木工事」

◆講師：市立市川考古博物館長 堀越正行氏

◆時間：午後2：00～3：30

□参加費：無料／申込み先：当センター資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）

●平成12年度千葉県遺跡調査研究発表会

◇内容：県内の主な発掘調査の研究成果を発表し、出土品を展示します。

◇主催：千葉県文化財法人連絡協議会・千葉市教育委員会（共催）

◇日時：平成13年1月21日（日）

午前10：00～午後3：30

◇会場：千葉市文化センターのホール及び市民サロン

【千葉中央ツインビル2号館3階・5階／千葉市中央区中央2-5-1】

◇対象者：県民ほか関係者

◇参加費：無 料（当日受付）

◇問合わせ：当センター調査部企画課 Tel 043-422-8811（代表）



出土品を見学する地元の小学生
（写真提供／県立大利根博物館）

■表紙について
君津市沖込遺跡1号墳出土玉類／古墳時代前期 撮影：堀越知道

房総の文化財

VOL.23

平成12年11月30日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県君津市鹿島809-2

TEL 043-422-8811（代）

FAX 043-422-8850

www.chiba-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-8844

0919-8844



発掘調査速報

当時の形を残した横穴

—大網白里町宮谷横穴群—



調査区遠景（左から、4号・3号・2号横穴）

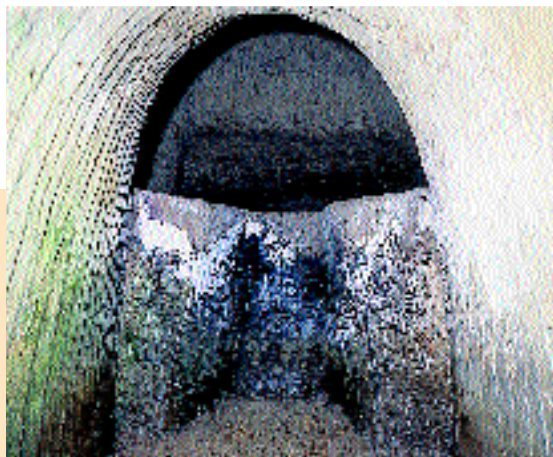
宮谷横穴群は、九十九里平野が一望できる標高50m前後の金谷郷丘陵の南斜面にあります。横穴群は7基で構成されており、平成12年5月から7月にかけて、その内の4基を発掘調査しました。

横穴とは、丘陵の斜面を利用して横に穴を掘ったお墓のことで、古墳時代の終わり頃（約1400年前）に集中して造られるようになりました。

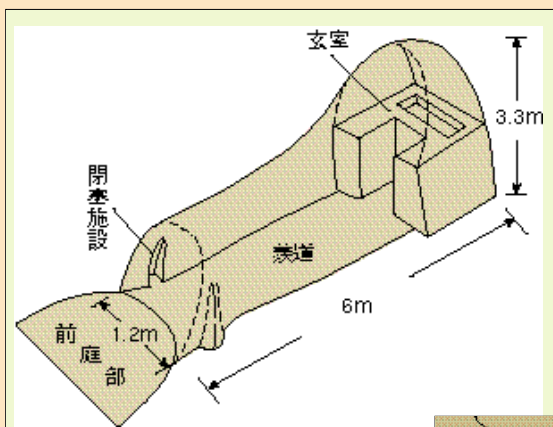
見つかった横穴の構造は、入り口の外の「前庭部」（墓前域）、玄室への通路である「羨道」、遺体を安置した「玄室」から成り立っていました。

普通、入り口から羨道にかけての天井部分は崩れてしまうことが多いのですが、今回調査した3号・4号横穴では、ほぼ完全なアーチ形に残っており、古墳時代当時の状態がよく分かりました。

その結果、玄室と羨道の床面の段差が大きい横穴（高壇式）の形態が明らかになりました。また、入り口部分の側壁には、縦に掘り込まれた「ほぞ穴」があり、板などをはめ込んだ閉塞施設があったようです。さらに、横穴を掘った道具の痕もはっきり残っており、横穴の各部の機能や造り方を考える上で、大きな成果を上げることができました。



羨道から玄室を見る



宮谷横穴の構造模式図



遺跡今昔物語

消えゆく中世の風景

頭上を通り過ぎていくモノレール。千葉市では、もうすっかり見慣れた風景となりました。この千葉都市モノレールの建設に伴って、昭和57年から昭和60年にかけて6遺跡の発掘調査が行われました。調査が行われた遺跡の一つ廿五里城跡では、塚の下から死者を葬った常滑産の大甕、土壇墓、火葬骨を納めた骨蔵器、板碑など中世の墓地に関連した遺構や遺物が発見されました。このあたりは原城跡・高品城跡・源館跡・殿台城跡などの城跡が点在しており、中世の遺跡が密集している地域です。



千葉都市モノレール発掘調査

廿五里城跡からは、お経の一部分を書いた墨書土器（写真）が出土しています。浄土教の重要なお経の一つ『無量寿経』の阿弥陀四十八願のうちの第十八願が書かれており、県内では初めての出土例です。これは、「全ての人々が熱心に南無阿弥陀仏を唱えれば、極楽浄土に行くことができるであろう」という意味を表しています。平安時代後期以降、地方にも浄土教が広まったことを、この墨書土器が語っています。

モノレールの開通以後、廿五里城跡周辺の開発が進み、かつての面影を残している場所が急速に消えつつあるのは、やや残念な気がします。

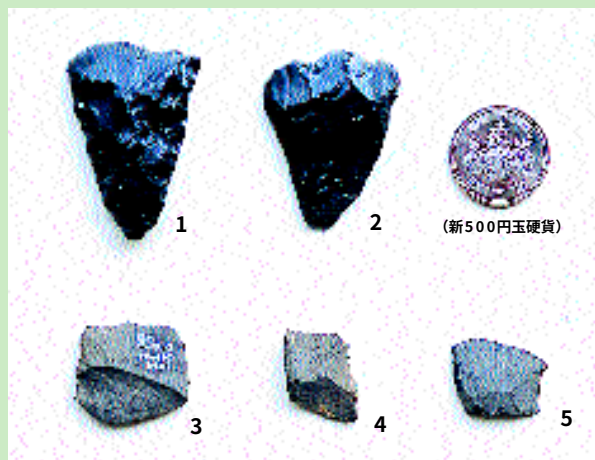
廿五里城跡の塚（15世紀の常滑産の大甕が発見された。その中には、熟年男性が葬られていた。塚の基底面に亡き者の罪を少なくするための砂がまかれた跡があり、「土砂加持」という法要が行われたらしい）

遺物紹介コーナー

なぞの多い石器

—台形様石器—

台形様石器は、今から約3万年から2万5千年前にかけて、日本中で作られた旧石器時代の石器です。主に台形のような形をしているので、こう呼ばれるようになりました



が、実際の形は様々です。大きさは3cmから5cmほどの、小型の石器です。

台形様石器の一例として、まず市原市草刈六之台遺跡出土の資料を紹介します（写真1・2）。神津島から持ち込まれた黒曜石の石片を材料にして、逆三角形に作られています。上辺は鋭い刃で、それ以外の部位は、表裏を薄く削ぐように、丹念に仕上げられています。

2つ目の例（写真3・4・5）は、千葉市鎌取遺跡出土の資料です。安山岩の石片を用い、鋭い刃を上辺にして、不要な部分を断ち切るような加工によって、長方形に作られています。

このように、台形様石器には様々な形があ

り、木の柄を着けて、突く・切る・削るなどの道具として使われたと思われますが、まだなぞの多い石器です。

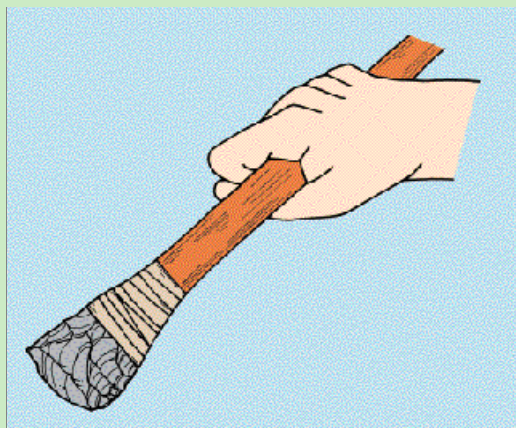


写真1・2の石器に柄を着けたようす（イメージ画）

